

# メトアナ<sup>®</sup>配合錠HD

を服用される方とそのご家族へ

この冊子には、メトアナ<sup>®</sup>配合錠を服用する際の注意事項がまとめられています。服用前に必ずお読みください。



監修：国立大学法人 山口大学 学長  
谷澤 幸生 先生



# メトアナ<sup>®</sup>配合錠について

## ●メトアナ<sup>®</sup>配合錠とは

メトアナ<sup>®</sup>配合錠は、ビッグアナイド薬**メト**ホルミン塩酸塩と、DPP-4阻害薬**アナ**グリプチンがひとつになった2型糖尿病治療薬です。

メトホルミンはインスリンが効きにくくなっている状態を改善するお薬です。

アナグリプチンは血液中の糖の濃度に応じてインスリンを出すお薬です。

メトアナ<sup>®</sup>配合錠は2つの異なる作用で血糖を管理します。

### メトアナ<sup>®</sup>配合錠LD



メトホルミン塩酸塩 250mg  
アナグリプチン 100mg  
(1錠あたり)

### メトアナ<sup>®</sup>配合錠HD



メトホルミン塩酸塩 500mg  
アナグリプチン 100mg  
(1錠あたり)

## ●飲み方

# 1回1錠

# 1日2回(朝と夕)

食事の前後どちらでもかまいません。

## ●飲み忘れたときは



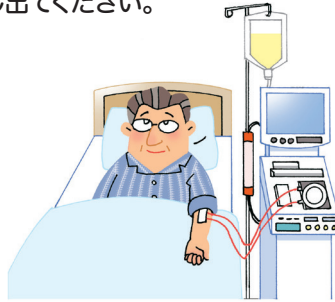
気づいたときに1回分(1錠)を服用してください。ただし、次の服用時間が近い場合は、次の服用時間に1回分(1錠)を服用してください。

2回分を一度に服用しないでください。



## ●服用にあたっての注意点

腎臓や肝臓の機能が低下している人、透析を受けている人、心臓・肺に病気のある人、乳酸アシドーシス(P3-4参照)を起こしたことがある人は、必ず医師に申し出てください。



発熱、下痢、嘔吐、食欲不振のため食事ができないなど、シックデイ(P4参照)の際は服用をやめて、医師に相談してください。

メトアナ®配合錠服用中は、定期的な腎機能検査や肝機能検査が行われます。高齢者や、慎重な経過観察が必要な場合には、検査回数が増えることがあります。



## ●医療機関受診時のお願い

医療機関受診時、以下の場合にはメトアナ®配合錠を服用していることをお伝えください。



- 🐾 新しい別のお薬をもらう
- 🐾 血管・尿路造影検査やCT検査などの、ヨード造影剤を用いた検査を受ける
- 🐾 手術を受ける

# 乳酸アシドーシスについて

## ●乳酸アシドーシスとは

乳酸アシドーシスは、血中の乳酸が増加し、血液が酸性に傾く状態です。進行すると死に至る場合もあります。



藤田 延也, 乳酸アシドーシス, カラー版 糖尿病学—基礎と臨床 2007, 西村書店, P1004-1008, より作図

気になる症状があらわれたら、メトアナ®配合錠を飲むのをいったんやめ、すぐに医師にご連絡ください。

## ● 乳酸アシドーシスを起こさないために



**お酒の量は控えましょう。**

多量の飲酒により  
体内に乳酸がたまりやすくなるため  
重篤な乳酸アシドーシスを生じることがあります。



**適度な水分摂取を心がけましょう。**

脱水状態では乳酸アシドーシスが  
起こりやすくなります。



**シックデイではメトアナ®配合錠の服用をやめて、  
医師に相談しましょう。**

シックデイ※時は脱水状態になりやすいため  
乳酸アシドーシスを起こしやすくなります。

※シックデイとは 糖尿病をもつ方が治療中に発熱、下痢、嘔吐をきたしたり、または食欲不振のため、食事ができないときをシックデイと呼びます。シックデイのときは、原則として以下の対応をとってください。

- 🐾 主治医に連絡し指示を受ける
- 🐾 メトアナ®配合錠の服用を中止する
- 🐾 十分な水分の摂取により脱水を防ぐ
- 🐾 食欲のないときは、日頃食べなれていて口当たりがよく消化のよい食物(たとえば、ジュース、スープ、おかゆなど)を選び、できるだけ摂取する。とくに炭水化物と水の摂取を優先する。



# 低血糖について

## ●低血糖とは

- 低血糖とは血糖値が異常に低くなっている状態です。
- 血糖値が低くなるにつれ症状は重くなり、進行すると意識を失うこともあります。

血糖値  
(mg/dL)

60

50

40

30

## 低血糖の症状

空腹感、手指のふるえ、発汗、顔面蒼白、  
動悸、不安感

集中力低下、眠気、めまい

思考困難、不可解な行動、けいれん、昏睡

赤井 裕輝, 糖尿病診療マスター, 2017; 15(2)P96-101, より作図

## ●低血糖を防ぐには

- 薬の量や飲み方は医師の指示を守りましょう。
- 食事療法、運動療法をきちんと行いましょう。
- 食事の時間、食事の量(ごはん等、炭水化物の量)に注意しましょう。
- 激しい運動、空腹時の運動は避けるようにしましょう。
- 飲酒や入浴でも低血糖が起きることがあるので注意しましょう。



## ● 低血糖が起こったら

- 低血糖には早めの対応が重要です。
- 低血糖の症状に気づいたら、我慢せず、すみやかに糖分(ブドウ糖、砂糖など)をとってください。
- ただし、 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤(ミグリトール、ボグリボース、アカルボース)などの糖分の吸収を遅らせる薬剤を併用している場合には、必ずブドウ糖を飲んでください。
- 高所作業や自動車運転時は重大な事故につながるがあるので注意しましょう。ブドウ糖を含む食品を携帯し、低血糖の気配を感じたら、すぐに作業や運転を停止し、すみやかにブドウ糖を摂取してください。
- 低血糖を起こした場合は、必ず早めに医師に報告してください。
- 糖尿病IDカード(緊急連絡用カード)を携帯するようにしましょう。



緊急時 ID カード

わたしは糖尿病患者です。  
I HAVE DIABETES



公益社団法人 日本糖尿病協会

日糖協公認マスコットキャラクター  
「マールくん」

自身が糖尿病であることを、低血糖時や交通事故などの緊急時に、まわりの関係者に知らせることができます。

日本糖尿病協会

[https://www.nittokyo.or.jp/modules/patient/index.php?content\\_id=4](https://www.nittokyo.or.jp/modules/patient/index.php?content_id=4)



この冊子に記載されている内容以外にも、  
気になる点や不明な点がありましたら、  
かかりつけの医師または薬剤師に相談してください。



医療機関名



株式会社 三和化学研究所

2024年2月改訂

MTA-010 A00579 PI2402